

大地震による 火災の過半数は 電気が原因です。

首都直下地震に備えて
自宅での出火防止対策を

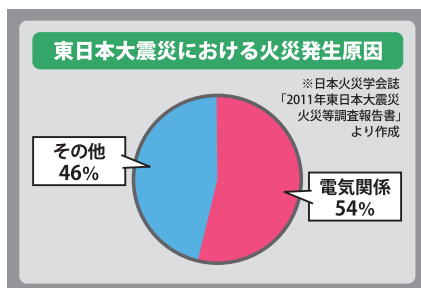
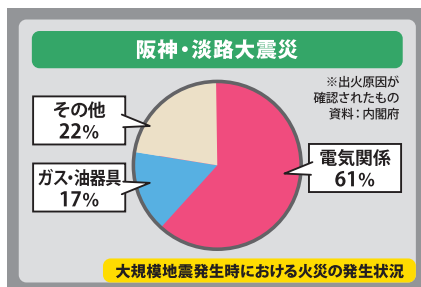


電気火災とは 電気機器や電気関係の配線などが原因で発生する火災のこと。

いずれくる大地震。 電気火災の恐ろしさをご存知ですか？

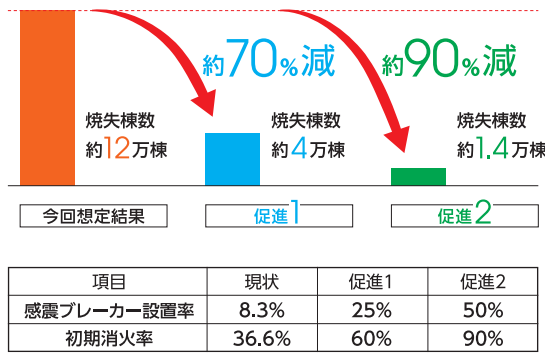
電気火災の危険性

地震による火災の多くは電気が原因です。事実、阪神・淡路大震災や東日本大震災の火災原因の半数以上が「電気関係」でした。いつ起きてもおかしくない首都直下地震でも電気火災のリスクが懸念されています。日頃からの対策が大切です。



電気火災対策で被害低減

東京都では、電気火災対策として各家庭で感震ブレーカーの設置が促進された場合の被害低減効果を推計。合わせて初期消火率も向上した場合、約90%の被害低減効果が期待されることがわかりました。

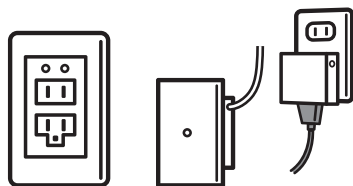


電気火災対策は、 「感震ブレーカーの設置」が効果的

感震ブレーカー

感震ブレーカーは、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気供給を自動的に止める器具です。

揺れたら
自動で電気供給を
STOP!



コンセントタイプなら、差し込むだけの簡単設置

感震ブレーカーの種類

主幹ブレーカーを落として家のすべての電気を遮断するタイプと、特定の電気機器の電気だけを遮断するタイプがあり、製品ごとの特徴や注意点を踏まえて選ぶ必要があります。詳しくは「特設ホームページ」をご覧ください。

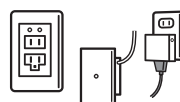
分電盤タイプ(内蔵型)



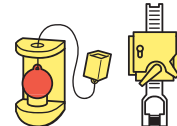
分電盤タイプ(後付型)



コンセントタイプ



簡易タイプ



電気火災の事例

その1

地震で本棚が倒れ、雑誌が電気ストーブ周辺に散乱。

停電した状態から通電し、ストーブが作動。

紙類に着火
火災が発生。

その2

家具が転倒し、「電気コード」が下敷きや引張で損傷。

通電の瞬間、コードがショート。

散乱した室内で、近くの燃えやすいものに着火。

出火リスクの高い電気機器などを使うコンセントに感震ブレーカーを設置すると効果的。

重要

避難時の注意点

地震などで避難するときは、電気火災を防ぐために主幹ブレーカーを切ることが大切です。



特設ホームページはこちら▶

<https://edogawa-kanshin-breaker.jp/>

